

2020 年度第 2 回日本地球化学会理事会

日時：2020 年 9 月 13 日（日）10:00-12:00

場所：ZOOM オンライン開催

出席者：鍵 裕之，益田 晴恵，南 雅代，小畑 元，奈良岡 浩，浅原 良浩，服部 祥平，太田 充恒，川口 慎介，横山 哲也，寺田 健太郎，角野 浩史，高野 淑識，日高 洋，藪田 ひかる，原田 尚美，板井 啓明，大野 剛，福士 圭介，鈴木 勝彦，角皆 潤，張 勁，飯塚 毅，山本 鋼志（監事），蒲生 俊敬（監事）

審議事項

1. 総会の手順・資料の確認

1.1. 準備状況の説明（板井総務幹事：資料 1）

総会の出席予定者の数が約 100 人であること，委任状総取得数 207 件で定足数を超える見込みであることが報告された。総会の議長は橘会員，議事録署名人は高橋嘉夫会員を推薦することが承認された。また，ヘルプデスクとして大野会員幹事，服部企画幹事，川口理事が共同ホストとなり，運営を補助することとなった。

1.2. 手順・資料の承認（飯塚庶務・浅原会計・大野会員幹事：資料 2a,b）

総会の資料案が説明され，後援企業のロゴを表示したスライドを加えること，議決をとる際に ZOOM の挙手機能を用いるため，その利用の仕方の説明スライドを加えること，授賞式の ZOOM の URL を記入したスライドを加える変更の上で承認された。

報告事項

2. 夜間集会プログラムの確認（南将来問題委員長：資料 3）

夜間集会プログラムの内容が資料に沿って説明され，益田副会長が司会を行うこと，URL は受賞講演と一緒にものを利用することが報告された。

3. オンライン年会の準備状況（服部企画幹事・南年会委員長：資料 4a,b,c）

企業からの後援が当初の見込みより大幅に上回ったこと，9 月 25 日にコンビーナ宛にプログラムが送付される予定であること，現在までの参加・発表登録数が報告された。

4. Goldschmidt 2026 招致について（横山国際対応委員長：資料 5）

Geochemical Society から Goldschmidt2024 を日本開催することの打診を受けた後に，COVID-19 の影響で Goldschmidt の東アジア開催予定が 2026 年に変更されたことが説明された。この 2026 年会の日本招致に立候補するかどうかについて，今後議論していく予定。夜間集会では，会員に向けてこれらの説明を行う。さらに，11 月のオンライン年会の際にも議論する場を設け，これらの議論に基づいて 2026 年の招致に立候補するかどうかを 2020 年内に臨時理事会を開催して決議をとる予定である。また，今後の Goldschmidt は現地開催とオン

ライン開催のハイブリッドになる可能性が高いだろうという意見が出された。

5. 広報幹事報告（資料 6a,b）

8月の広報委員会の活動として、メーリングリストへの代理送信、ウェブサイトの更新（主にオンライン総会・授賞式・受賞講演・夜間集会・年会関連）、ニュース 242 号の発行、講師派遣事業の講師情報の更新に伴い、オンライン講演が可能な講師をウェブサイトで明記する旨の報告があった。オンライン講演の場合に使用する Web 会議システムは原則として依頼元が用意することとするが、事情により学会契約の Zoom アカウントの利用も認めることが議論された。

6. 会員幹事報告（資料 7）

8月の会員数の推移と、新規会員および退会会員が報告された。

7. GJ 報告（資料 8）

GJ の編集・発行状況、Data カテゴリーおよび Most Downloaded Paper Award の創設を検討中であること、会長が承認済みの GJ の著作権使用許可案件が報告された。また、GJ の投稿数が減少していることを受けて、積極的な投稿を呼びかけるようにとの働きかけがあった。

8. 和文誌地球化学編集長報告（資料 9）

企画総説、特集号を募集中であることが説明された。また、最近の編集状況、特集号「放射性ヨウ素・ハロゲンの地球化学」が vol. 54, No. 4 で出版予定であること、特集号「地球化学－資源地質合同特集号その 3」の総説 2 報が査読中であることが報告された。

9. 庶務幹事報告（資料 10）

和文誌「地球化学」の広告掲載を募集したところ、株式会社ヒューリンクスから 2021 年度第 1,3 号の、フリッチュジャパン株式会社から 2020 年度第 3～2021 年度第 2 号に広告掲載依頼があったこと、理事の登記変更手続きが完了したこと、オンライン年会の共催学会に周知依頼を行ったことが報告された。